

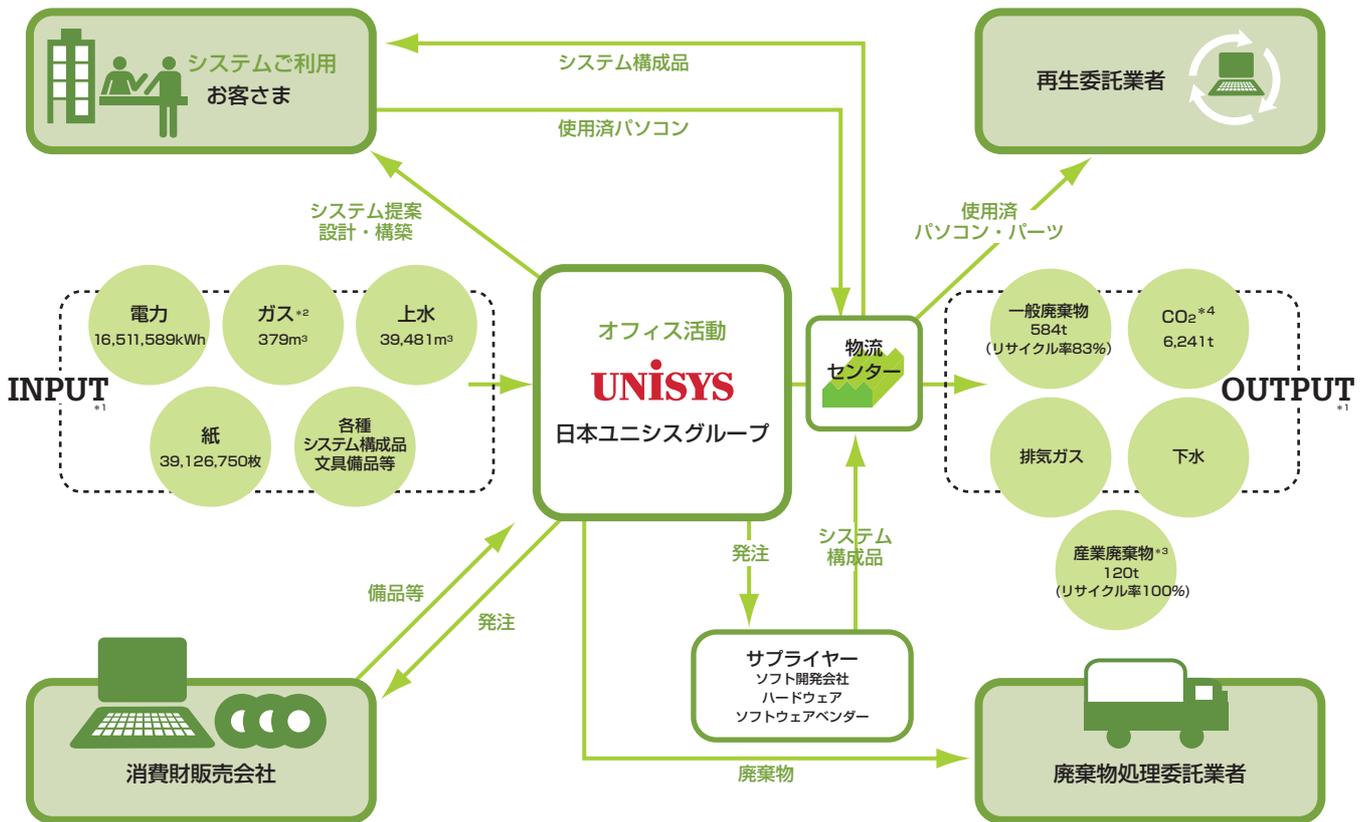


地球環境のために

日本ユニシスグループの事業活動が地球環境へ与える負荷は製造業などに比べると相対的に小さいものの、絶対量は決して小さくはありません。業種、業態にかかわらず、継続的な環境負荷の低減は企業の責務であると考え、取り組みを続けています。



日本ユニシスグループと環境との関わり



*1 データの範囲は豊洲ONビル（日本ユニシスグループ本社ビル）
 *2 昨年度より日本ユニシスグループが使用したガスの使用量のみを記載しています。
 *3 家具・什器等
 *4 $16,511,589\text{kWh} \times 0.378\text{kgCO}_2/\text{kWh}$ 「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」（試案ver1.6）環境省地球環境局

● 2005年度日本ユニシスグループの環境推進活動について
 CO₂排出量の削減を推進するためにも、「チーム・マイナス6%」に参加し、クールビズの実施を始め、電気使用量の削減に努めました。また昨年度に引き続き、本業による環境負荷削減にも取り組みました。資源の有効利用を促進するためにも、3Rを実践しPCや修理用部品の回収・再生・再利用を行いました。グリーン調達に関しましても、主な調達先からの購入については、日本ユニシスグループのガイドラインに準拠しています。

● 環境負荷データの対象範囲

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
日本ユニシス	●	●	●	●
ユニアデックス	●	●	●	●
日本ユニシス・ソリューション	●	●	●	●
日本ユニシス情報システム	●	●	●	●
日本ユニシス・ラーニング	●	●	●	●
日本ユニシス・ビジネス		●	●	●
日本ユニシス・アカウンティング		●	●	●
トレードビジョン			●	●
日本ユニシス・エクセリュージョンズ			●	●
エイタス			●	●



みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

CoolBiz
を実践しています

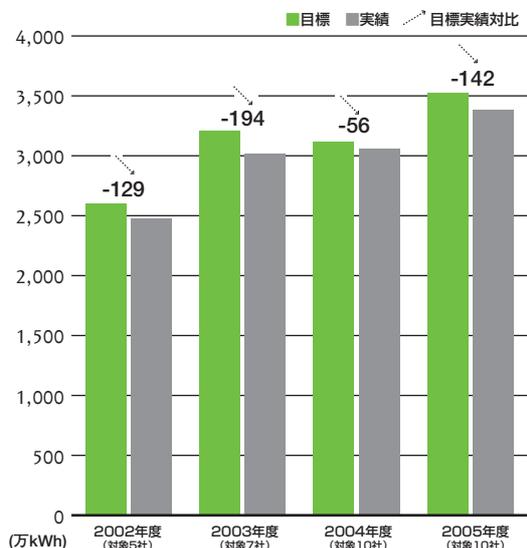


電気使用量/CO₂排出量の削減

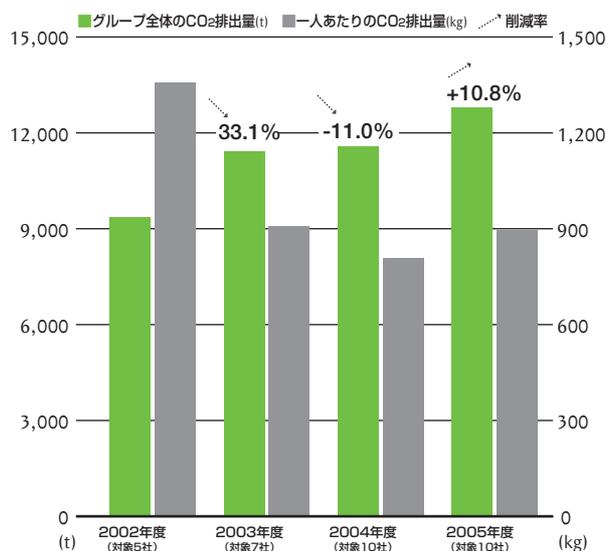
2005年度の日本ユニシスグループのCO₂排出量は12,788トン*1でした。社員一人あたりのCO₂排出量は894kgでした。一人あたりの排出量は2002年度～2005年度の4年間で462kg、34%減少しました。

*1 対象となるグループ会社の対象サイト（ビル）での、電力使用量を、環境省温室効果ガス排出量算定方法（排出係数：0.378kgCO₂/kWh）にしたがい換算した値。対象範囲は「環境負荷データの対象範囲」をご覧ください。

●電気使用量目標・実績の経年変化



●グループ全体と一人あたりのCO₂排出量



2002年度～2004年度の一人あたりのCO₂削減量は、クスノキ約1/2本分

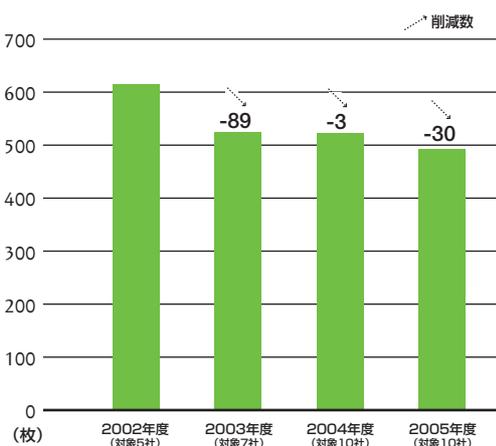
【参考】公害健康被害補償予防協会の「大気浄化植樹マニュアル」（H15.3改訂）によれば、クスノキ（直径約50cm）の総CO₂吸収量は1本あたり約1.08t-CO₂/年。



紙使用量の削減

2005年度の日本ユニシスグループ全体の一人あたり1ヶ月のコピー用紙使用量は492枚でした。2002年度～2005年度の4年間で、月あたり122枚、年間換算にして1,464枚減少しています。

●一人あたり1ヶ月コピー用紙使用量実績



2006年度の目標

●CO₂削減

IT企業として、ITで拓く持続可能な社会をめざして、ITソリューション活用によるCO₂削減量を数値化し、環境負荷削減効果を測定できるよう、測定方法を検討して社内での活用を開始します。

●用紙削減

電子承認システムと電子文書保管システムを導入する事により、日本ユニシスグループの環境推進活動での紙使用ゼロをめざします。それにより年間約35,000枚が削減されます。

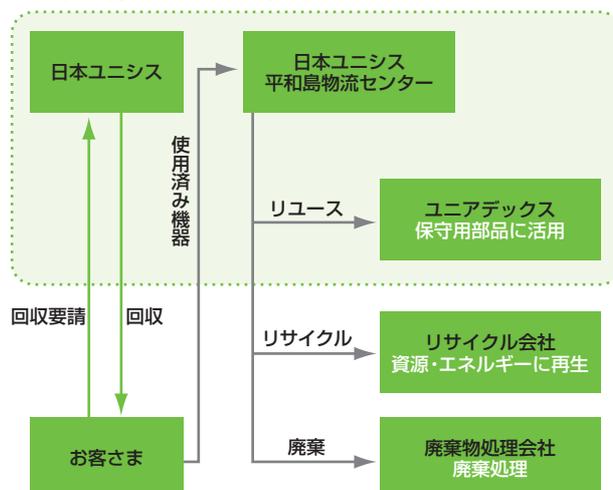


使用済み情報処理機器の回収・再資源化への取り組み

日本ユニシスグループ環境方針の基本理念である「ITが地球のためにできること」のもと、21世紀の持続的発展を可能にする「環境の世紀」とするために、広域的な運搬システム（2003年11月：広域指定、2005年11月：広域認定をそれぞれ取得）を活用して、使用済み情報処理機器の再資源化（リユース・リサイクル）に自主的・積極的に取り組んでいます。



●使用済み情報機器の回収・再資源化フロー



2001年4月に、廃棄物の発生抑制（リデュース）、部品等の再利用（リユース）、使用済み製品等の原材料としての再利用（リサイクル）を総合的に推進することを目的に資源有効利用促進法（改正リサイクル法）が施行されています。日本ユニシスはメーカーではありませんが、2002年3月に「使用済指定再資源化製品の自主回収及び再資源化に係る認定」を取得し、家庭系ならびに事業系から排出される使用済パソコンの自主回収・再資源化（注）にも取り組んでいます。

また、環境問題への関心が高まる中で、日本ユニシスグループ環境推進委員会メンバーの一員として、当社グループ内で環境関連情報を発信し、より一層の意識向上を図っていきたく考えています。

これが、この素晴らしい地球環境を未来に継承するための大きな役割・使命だと思っています。

日本ユニシス・ビジネス 調達サービス推進部 物流・環境チーム 皆川 健三郎

VOICE!
職場の
VOICE!

注：2005年度の資源再利用率 デスクトップ型PC：70%、ノートブック型PC：43%、CRT型ディスプレイ：72%、液晶ディスプレイ：57%



社内外に向けた環境コミュニケーション

当社のホームページに設けているCSR Webサイトに環境関連の情報を掲載しています。また、全社員を対象としたeラーニングによる環境教育を毎年実施しています。2005年度には高校生を対象とした環境教育も行いました。



<http://www.unisys.co.jp/eco/>



高校生への環境教育